

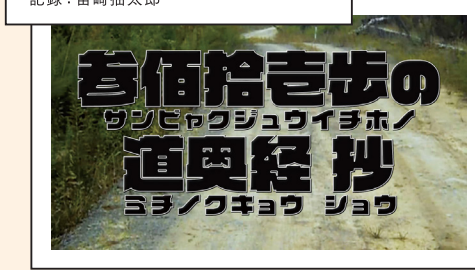
展示

3がつ11にちをわすれないためにセンター(わすれん!)のプロジェクトの一部を紹介します。

3/9(水)~3/13(日) 時間 10:00-18:00 会場 1Fオープンスクエア
 3/15(火)~4/24(日) 時間 9:00-20:00 会場 7Fスタジオa
 3/24(木)はお休み

■ 市民によるプロジェクト

参佰拾壹歩の道奥経



震災から4年後の歩行録
 故郷・仙台が津波被害に見舞われつつも、なかなか足を運ぶことができなかった雷崎拙太郎さんは、2015年によりやくその地を訪れ、ただただ歩きなびビデオカメラを回しました。当事者とも非当事者とも言えない微妙な距離感のなか、関われなさや語れなさを乗り越える術として生まれた表現を、映像と文章で展示します。

日和山月報



関上日和山からの定点撮影
 名取市関上の日和山から見える8方向の景色を、2011年5月から毎月撮影し続けてきた佐藤泰美さん。それらの定点観測写真960枚に加え、毎月のスナップ写真、そしてドローンの映像なども含めたスライドショーを展示します。

Project San-Eleven



今だから語れる 学生たちの震災体験談
 東北に思いを寄せる大学生・留学生たちが、震災当時小中学生だった同世代の体験談などを集めてきた「Project San-Eleven」。被災の度合いにかかわらず、さまざまな地域に住む者たちが綴ったことばをまとめた冊子とともに、これまでの活動を振り返ります。

HOPE FOR project



想いを共有する場の舞台裏
 現在は震災遺構となった荒浜小学校を拠点とし、地元小中学校の卒業生が中心となって毎年3月11日にイベントを行っている「HOPE FOR project」。花の種を入れた風船を飛ばす追悼企画や音楽ライブの開催など、元地域住民だけでなく、荒浜地区を想う人びとが集まる場づくりに継続して取り組んできました。この舞台裏に関わってきた関係者の証言と、10年の記録映像を展示します。

リアルふっこうボイス



10年分のまちの「こえ」を振り返る
 震災後に復興まちづくりが進められてきた地域の方々々にインタビューし、その「こえ」を配信するラジオ番組「リアルふっこうボイス」。全43回の配信で紹介してきた118人の「こえ」からは、わだかまりや戸惑い、葛藤などが見えてきます。復興の過程で、とすれば有象無象として扱われてしまう「こえ」に改めて耳をかたむけ、これからのまちづくりを考えます。

ここにいた時は子どもだった



子どもたちの暮らしの痕跡
 震災後、福島県浪江町や双葉町に通い続けてきた高橋親夫さんは、人がいなくなったまちの風景の変化とともに、今なお残る子どもたちの暮らしの痕跡を写真に収めてきました。保育園の壁に飾られた子どもたちの絵など、かつての賑やかな時間を想像させる写真を展示します。

Team Sendai



市民への 災害エスノグラフィー・ヒアリング
 仙台市職員の自主的勉強会グループ「Team Sendai」は、災害エスノグラフィーというヒアリングの手法を用い、震災の体験談の聞き取りや活用を行いました。今回はその中から仙台市青葉区片平地区の今野均さん、仙台市若林区荒浜地区の佐藤寛さんへのインタビュー映像を展示します。

● わすれん! 企画のプロジェクト

ダイブわすれん!



わすれん!の記録資料の海に潜る
 「ダイブわすれん!」は、わすれん!に寄せられてきた多種多様な記録資料の海に潜る=ダイブすることで、今後の資料の利活用を考える新たな取り組みです。このプロジェクトに参加する角尾宣信さん(映画研究者)、明貴紘予さん(キュレーター)、中村大地さん(作家・演出家)による鼎談映像や、関連資料を展示します。

宮城県沿岸部の定点観測写真



定点で見るまちの変化
 震災後から続けてきた定点観測写真の撮影。宮城県沿岸部の気仙沼、石巻、女川、名取、仙台(荒浜小学校周辺、海岸公園冒険広場周辺)にて、2021年も撮影を行いました。区画整理やかさ上げ工事による風景の変化など、継続的な記録活動によって浮かび上がるまちの変化の記録を展示します。

アーカイヴィークル



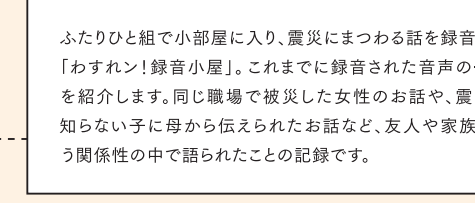
震災記録に触れる移動式資料室
 わすれん!にこれまで寄せられた震災記録をもとに制作した展示パネルやDVD、「わすれん!レコード」などが閲覧できる小さな移動式資料室。普段は2階の映像音響ライブラリーに設置されており、パネルやDVDはライブラリーで貸出しています。

3月12日はじまりのごはん



食から思い出す震災の記憶
 3.11オモイデアークイブとわすれん!による協働企画。時間が経ち、徐々に語られにくくなった震災について、当時の「食」にまつわる写真をきっかけに、来場者が当時の体験や想いを自由にふせんに書いていく参加型の試みです。

ふたりで震災の対話を残すプロジェクト



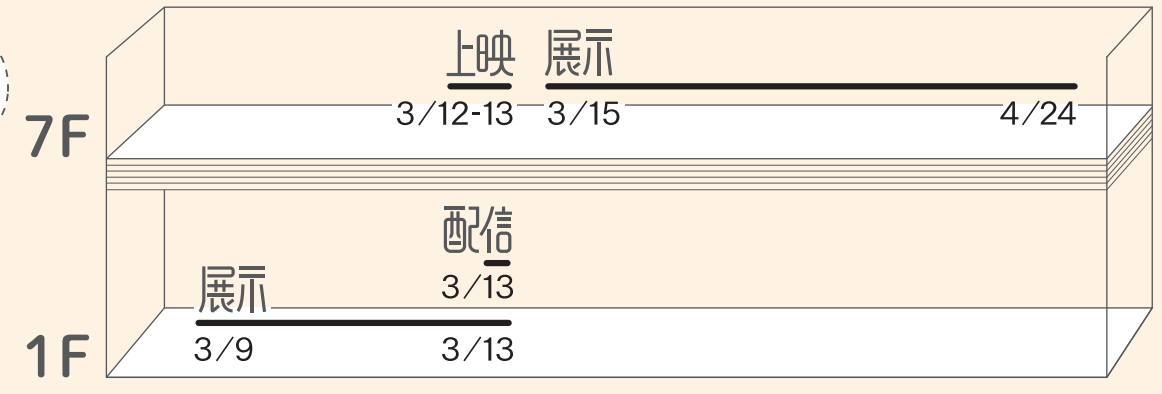
ふたりひと組で小部屋に入り、震災にまつわる話を録音する「わすれん!録音小屋」。これまでに録音された音声の一部を紹介します。同じ職場で被災した女性のお話や、震災を知らない子に母から伝えられたお話など、友人や家族という関係性の中で語られたことの記録です。

「アーカイヴィークル」と「わすれん!録音小屋」の資料は普段は2Fで見ることができます。

わすれん! 録音小屋



フロア別で見るスケジュール

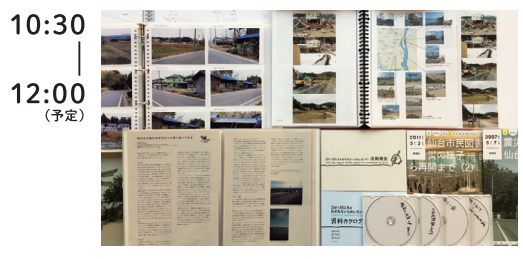


上映

新たな取り組みの成果や制作物などの映像をゆっくり座ってご覧いただけます。

会場 7Fスタジオシアター

3/12(土)



鼎談映像:ダイブわすれん!に参加して
 わすれん!の多種多様な記録資料の海に潜る=ダイブすることから、今後の資料の利活用を考える取り組み「ダイブわすれん!」。このプロジェクトに参加した角尾宣信さん(映画研究者)、明貴紘予さん(キュレーター)、中村大地さん(作家・演出家)が、記録資料の海に潜って感じたこと、考えたこと、見えてきたものを語った鼎談映像です。制作:3がつ11にちをわすれないためにセンター



参考上映 ある春のための上映会 - 佐藤そのみ監督作品 -
 上映作品 ①春をかさねて(2019/劇映画/45分) ②あなたの瞳に話せたら(2019/ドキュメンタリー/29分)
 石巻市出身の佐藤そのみさんが、大学時代に大川地区で撮影した自主映画「春をかさねて」(震災直後の大川地区を舞台にしたフィクション)、『あなたの瞳に話せたら』(多くの犠牲を出した「石巻市立大川小学校事故」にまつわるドキュメンタリー)の2作品を上映します。上映後のトークでは、制作の経緯や、記録と表現への向き合い方についてお話を伺います。トークゲスト:佐藤そのみ、小森はるか(映像作家)



「ダイブわすれん!」セレクション
 「ダイブわすれん!」プロジェクトに参加した3名が、これまでに発行された「わすれん!DVD」99本の中からそれぞれ選んだ映像を上映します。*上映作品は決まり次第ウェブサイトでお知らせします。

3/13(日)



3月11日を荒浜で過ごす HOPE FOR projectの10年
 上映作品 ①10years of HOPE FOR project-behind the scenes-(19分) ②HOPE FOR project 2021-10years on, Special Session (44分/監督:梅田航)
 現在は震災遺構となった荒浜小学校を拠点とし、毎年3月11日に皆が集える場を企画する「HOPE FOR project」の映像を2本上映します。1本目は、この舞台裏に関わってきた関係者へのインタビューと10年の記録。2本目は、震災から10年の日のために演奏された音楽ライブの映像です。ライブ映像出演:HUNGER (GAGLE)、會田茂一、恒岡章、佐藤那美 制作:HOPE FOR project実行委員会

配信

会場でもオンラインでも聞くことができる語り合いの場です。

会場 1Fオープンスクエア

3/13(日)



リアルふっこうボイス vol.44 復興は「こえ」とどう向き合うか
 復興において計画やまちをつくるための手段と化してきた声。震災後に一人ひとりが発した「こえ」にはどんな意味があったのか?どのようにして「こえ」は生まれるのか?「こえ」を復興まちづくりに活かすことはできるのか?これまでにインタビューした118人の「こえ」を、ゲストとともに振り返り、復興における「こえ」との向き合い方について考えます。出演:豊橋純一、芳谷智大、内海康也、田川浩司(まちづくり部) 出演者:佐藤寛、荒浜小学校 制作:HOPE FOR project実行委員会

まちづくり部のYouTubeチャンネル <https://www.youtube.com/channel/UCmshwEHUv2fphnTHA7sVPA>



あの日の星空と、
そこから歩んできた11年を振り返る

せんだいメディアテークは2011年5月3日、東日本大震災による甚大な影響に対し、ともに向き合い考え、復興への長い道のりを歩きだすために「3がつ11にちをわすれないためにセンター」(略称:わすれん!)を開設しました。「わすれん!」には、市民、専門家、アーティストなどさまざまな立場の人びとが参加し、ともに震災にまつわる事柄を記録し、発信しています。

「星空と路」は、センターの参加者による記録を紹介する展示や上映会、そしてこれまでに寄せられた記録の利活用の試みの場として、毎年3月に開催しています。個々のまなざしがとらえた記録を通して、これまでの道のりとこれからの歩みを考える時間を過ごすことができればと思います。

3がつ11にちを
わすれないために



2022
3/9 (水) 4/24 (日)
3/14(火)、24(木)はお休み

入場無料 / 申込不要
会場: せんだいメディアテーク



3がつ11にちをわすれないためにセンター

せんだいメディアテークが、市民、専門家、アーティストと協働し、震災とその復旧・復興のプロセスを独自に記録・発信していくため、2011年5月3日に始めたプラットフォームです。参加者は、個人個人が体験した震災を映像、写真、音声、テキストで記録します。それらの記録は、「震災の記録・市民協働アーカイブ」として整理・保存され、さまざまな形で活用されています。



主催・問い合わせ
せんだいメディアテーク 企画・活動支援室
3がつ11にちをわすれないためにセンター
〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1
tel: 022-713-4483 fax: 022-713-4482
mail: office@smt.city.sendai.jp web: https://recorder311.smt.jp/

- 新型コロナウイルスへの対策について
- ・体調が優れない方はご来館をお控えください
 - ・マスク着用、手指消毒、咳エチケットにご協力ください
 - ・入場人数を制限する場合があります
 - ・やむを得ず中止となる場合があります

*この紙はリサイクルできます。